



東京都の山梨県よりの深沢山に、中世の山城である八王子城址がある。この城は地元の人々や、ごく一部の城址研究者以外には、あまり知られてはいない。

この城が、如何に歴史上重要な役割を果たしたかを知れば一層の興味がわくというものである。別の言葉でいえば、その落城の時に、正に歴史が動いたのである。

北条早雲に始まる後北条氏の第4代将軍氏政の弟である氏照の居城がこの八王子城である。

築城は、自領拡大を目指す戦国武将の常で、当然その目的をもっていただであろう。

しかし研究家の間では、小田原本城の支城として、当時勢いをつけて来た豊臣秀吉の軍勢を押し止どめる役割をもっていたというのである。

豊臣軍は、加賀の前田利家、越後の上杉景勝の数万の兵力で城を攻め、数千の北条勢は殆どが討ち死にや自刃し、たった一日で落城してしまった(1590年6月23日)。

小田原城が落城したのは、それから2週間足らずのことであった(7月5日)。さらに引き続き、秀吉の天下統一は、江戸城入場(8月1日)で実現したことになる。

八王子城が落城したことにより、戦意阻喪した北条勢は、小田原評定の末に、小田原城を明け渡すことになったと推測されている。したがって、春秋の筆法をもってすれば、八王子城の落城が秀吉の天下をもたらしたということ

ができるのである。

さて八王子城のある一帯は、夥しい血を流した死の山として、長い間ひとびとから忌み恐れられ、入山する人も少なかったそうである。

しかし、地元の人々の史跡保存の熱意と運動がついに国を動かすことになった。

1951年に国指定の史跡として保存されることになったのである。

その後、地方自治体も史跡公園として整備、復元、保存にのりだし、環境整備がされ、多くの見学者が訪れ、中・高生の歴史学習の場にもなっている。地元の保存会をはじめ、各種ボランティア組織の活発な活動により、押し寄せて来た幾つもの開発の波を押し止どめることに成功している。

所がである、史跡を保存し、そのための付近の環境を守ることを進めて来た同じ国が、圏央道(首都圏中央連絡道路)計画により、城の真下を自動車道路のトンネルを掘ることになったのである。

矛盾した国の政策に怒った住民を中心とする人々は、百万人署名を開始した。

圏央道は高尾山にもトンネルが掘られるので、高尾の自然を守る各団体とも共同歩調をとっている。

さらには昨年12月、工事差止請求訴訟を提訴している。

八王子城址国指定50周年を祝う集いは去る6月、予想を越えた150人の人々で賑わった。鎮魂の神主の祝詞は朗々として谷間にこだました。討ち死にしたのは侍だけではなく、地元の百姓や無辜の民が多くを占めていたようだ。八王子城をたたえる歌の合唱は、眠れる魂を呼びさまさんばかりであった。大鷹を守る会よりは、カラスの急襲を払いのけ、卵の孵化に近いことが報告された。

国の政策の統一を求め、史跡と環境を守りぬくことが総意として決意された。